

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSWニュース 10月号

2018年10月1日発行

事務局：大浜第一病院
〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171
FAX (098) 864 - 1874

E-mail mshimoji@nch.naha.okinawa.jp
編集：下地 舞
(那覇市立病院)

研修参加報告

沖縄回復期リハ病棟協会 第6回研究大会 参加報告

勝山病院：漢那 望

平成30年9月8日(土)に名桜大学で行われた、沖縄回復期リハビリテーション病棟協会 第6回研究大会に参加しました。「地域に求められる回復期リハ病棟」のテーマのもと6人のシンポジストによるシンポジウム、5題の一般演題の発表がありました。シンポジウムでは、回復期側、地域側からお願いしたいことや聞きたいことなどのテーマで討論が行われました。回復期病棟の相談員として、他病院の取り組みや意見、そして居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションなど地域からの意見を聞くことができ、これまでの退院支援を振り返るよい機会となりました。回復期病院側の取り組みとして、食事や更衣、排泄、車椅子の自走など月ごとに項目を決めて訓練や評価を行う、患者様、ご家族へ向けて、排泄用品や介護方法についての勉強会を開催したり、退院に向けてのアプローチが報告されていました。地域からの意見では、退院に向けて病院とケアマネの目標設定が統一されていないということや、家族力や介護力に着目した家族指導や勉強会への取り組みをしてほしいなどが挙げられています。

回復期によって退院支援の取り組みが様々で、参考にしようと思う一方で、看護サマリーやリハビリサマリーが病院によって違い、情報の差が出てしまうことがわかりました。那覇市では、市内で退院支援のルール作りがされており、看護サマリーの統一に取り組んでいるとの情報もありました。当院でも退院支援にあたり、急性期からいただく情報、地域へ発信する情報に差があり、情報の統一について検討中です。今後もさらに地域とのスムーズな連携が図れるよう取り組みを検討していきたいと思っております。

CONTENTS

- ・沖縄回復期リハ病棟協会 第6回研修大会に参加して
(勝山病院 漢那)1
- ・第18回沖縄県慢性期医療協会研究発表会参加報告
(牧港中央病院 小橋川) 2
- ・初任者研修に参加させて頂いて(中頭病院 知花).....2
- ・MSW初任者研修を通して
(県立南部医療センター 富里).....3~4
- ・在宅医療・介護連携南部圏域報告(久米島).....5~6
- ・自主勉強会報告.....7~8
- ・新入会員紹介.....9
- ・部会からのお知らせ 研修部だより.....9~10
- ・9月理事運営会議録.....11~14

第 18 回 沖縄県慢性期医療協会研究発表会 参加報告

医療法人博愛会 牧港中央病院 小橋川聡

平成 30 年 9 月 22 日に、第 18 回沖縄県慢性期医療協会研究発表会『つなぐ・つながる次世代へ～ちむぐくるで作る幸齢社会～』に参加しました。『治さなくてよい認知症 ～本人の生活と心情へ注目を～』東京医療学院大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 教授 上田諭先生による特別講演、29 演題(PC セッション 21 演題 ポスター 8 演題)と多数の研究発表が行われました。

特別講演では、認知症は治らない・確実な予防法がない病気である。健康長寿を目指す現在の社会では、加齢により認知症になる方が増えた事は不思議な事ではない。認知症になると“何もできない・何もわからない”という偏見は社会やメディアが作ったイメージであり、本人や家族の生きる力を奪い去り社会と孤立させてしまう。認知症患者は感情・心理は正常であるが故に(忘れる・できなくなる)不安や(対人関係薄れる)孤立・孤独を感じ、(社会・家庭での役割を失くす)自己否定的な感情が生まれてくる。認知症を治そうとして本人の心情を傷つけるより、そのままよいと受け入れ、少しでも楽しみのある生活、張りのある生活を考え工夫することが認知症の最大の治療である。「指摘しない、議論しない、怒らない」自尊心を傷つけず、心情を理解してあげることから始めてみて、薬物療法は最後の手段である。フランスでは、認知症薬の効果が不十分でとし今年 8 月から保険停止されたと仰っていました。

PC セッションでは、退院困難者に対して退院支援の取り組み、オムツの使用方法、関節の拘縮予防、皮膚トラブル、口腔ケア、嚥下、排便コントロール等、同じような悩み、問題を抱えている慢性期病院も参考になる取り組みばかりでした。今年は、残念ながら別研修と重なってしまいましたが、来年は是非参加してみたいかがでしょうか。

初任者研修会に参加させて頂いて

中頭病院 知花 太賀

6 月 10 日・7 月 29 日・8 月 12 日の 3 日間「基礎的な知識・技術を取得すること」、「直ぐに実務に役立つ制度などを理解すること」を通し、標準的な医療ソーシャルワーカー業務や、価値・倫理を基盤にした実践を学んだ。

初日は、医療制度改革の変遷と MSW 業務の講義で、医療ソーシャルワークは、その時代の医療政策から影響を受けていること。医療ソーシャルワークに連携機能が求められる背景を、医療政策の視点から理解するということを学び、医療ソーシャルワーカー価値・倫理の講義で、ソーシャルワークの価値。医療ソーシャルワーカー倫理綱領の 5 つの価値と原則・倫理基準・行動規範について。実践の基盤にソーシャルワークの価値・倫理があり、常にそれとの照合作業を行いながら実践をしていくことの重要性。対象者理解の重要性や、ソーシャルワーカーとしての専門的な態度の重要性を学び、午後から医療機関機能別専門知識を学

んだ。急性期病院の機能。回復期病棟の機能や特性、自身の所属機関と連携する上での留意点。緩和ケアの概念、緩和ケアの実際、ソーシャルワークの視点から考える緩和ケア。精神科病院の機能、精神科病院の入院形態、精神科病院PSWの退院支援について学んだ。

2 日目は、実践に必要な制度として生活保護・医療保険・介護保険をテーマに、生活保護では、生活保護に対する自己の持つ偏見やイメージ。生活保護の趣旨と4つの原理・原則、8つの扶助。生活保護の概要を学び、医療保険では、高額療養費・社会資源の情報提供と活用について学び、介護保険では、介護保険制度の歴史。介護保険制度の基礎知識。(申請から利用までの流れ)介護保険のポイント。(サービス内容や他制度との関係、今年度の改定)を学び、午後からのチーム医療におけるMSWの役割の講義では、なぜ、チーム(他職種協同)が必要か。その中でMSWの役割について学んだ。

3 日目は、アセスメントの講義で、ソーシャルワークのアセスメントがソーシャルワーク実践を行う上で基盤的要素であること。アセスメントの重要性と価値・倫理との関係性。アセスメントを学ぶことが、対象者理解や、ソーシャルワーカーとしての専門性を培う上で重要であること。ソーシャルワークの価値とアセスメントの関係性。アセスメントの展開。所属機関のアセスメントに必要な項目。クライアントの状況を把握するために必要なアセスメント項目。クライアントの強みを多く上げ、自分自身の強みも認識することを学び、記録の講義で、記録の重要性。MSWに必要な記録のあり方。記録を安全に保管し、業務に活用する。記録を書くことの意味。記録に書くべき内容・倫理的責任と法的義務を学び、午後からの退院援助の講義では、患者(御家族)の思いを大事にしながら、退院援助に必要な視点(退院援助を価値と倫理で説明できる)・知識(アセスメントし、支援計画がたてられる)・方法(情報収集ができる)を学んだ。

グループワークを通じ参加者との交流も深めることができ、とても充実した研修でした。

MSW 初任者研修を通して

県立南部医療センター 地域医療連携室 富里果林

初日は、MSWの歴史、各病院での役割について学ぶことができました。各病院によって医療ソーシャルワーカーの役割の相違点があり、仕事については医療ソーシャルワーカーの倫理綱領・価値に基づいて患者様と向き合い関わり、働きかけることが大切だと学びました。患者様との関係づくりは初回面談に受ける印象がとても大切だと知っていましたが、精神科病院ではより一層大切だと感じました。また、ラポール形成するうえで表情や言葉遣い、受容・傾聴の姿勢が患者様・家族に与える印象が大きいので特に大切になると感じました。

医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師との仕事内容の役割は病院によって異なっており、私達の病院でも、医療ソーシャルワーカー、入退院支援看護師さんがいるので、患者様・家族にとってより良い支援を提供できるようにお互いの役割について話していこうと思います。

2 日目は、病院では必ず利用し、必要となる制度について事例を通して学びました。普段から患者様やご家族へ説明、案内して利用に繋げているが、内容、利用についてまだ深く理解ができていないことに気づく

ことができました。グループワークでは、制度を受ける前に確認すべきことを学び、スムーズに利用できるように患者様へ伝えていきたいです。また、今回頂いた資料を参考し、自分自身の知識を深めていきたいです。

3日目は、午前中はアセスメントと記録について学び、アセスメントでは自分の価値観ではなく、ソーシャルワークの「価値」のなかで患者様が何を伝えたいのか、何を求めているどんな問題を抱えているのかなどを汲み取ることが大事だということがわかりました。記録をするにあたって情報の収集、情報の記憶、情報の重要性とその判断、情報の表現、最終確認が個人情報扱う上で医療ソーシャルワーカーには必要な能力だということがわかりました。今後の業務の中でも意識し、1回の面談で記録を書くのに十分な情報収集を行って行きたいです。

午後の事例検討によるロールプレイでは、情報収集、情報共有の大切さを学ぶことができました。急性期で集めた情報、患者様に伝えた情報、制度申請後の状況によって、回復期などの次の施設での対応も異なってくるので、漏れることなく情報共有を行うための伝え方などについて深く考えることができました。実際業務の中でも、再度確認し電話で何度も伝えることが多いので、急性期、回復期、療養型、施設など、各病院の立場になることで、相手がどの情報が必要なのか、どこまで必要なのか知ることができてとても良かったです。また、時には自分が行った支援に対して、倫理綱領をみてなぜこのような支援を行ったのか、倫理綱領を元に他にも必要な支援がなかったか振り返り、今後の支援に繋げていきたいです。

学校で学んでいたことだけでは現場ではぜんぜん足りなく、この研修で多くのことを学ぶことができました。今回の研修で学んだ MSW の役割、視点などをこれからの業務に活かし、医療ソーシャルワーカーとしての視点を忘れずに意識していきたいです。

8. 12 初任研写真





最期はみんなで記念撮影！お疲れさまでした！！

在宅医療・介護支援医療圏域報告(久米島)
久米島町における在宅医療・介護連携について

平成30年9月26日 久米島病院 新垣美鈴

今回は久米島町の取組みについてレポートさせていただきます。

まず、久米島町では現在、町内の各事業のとりまとめ、関係者の話し合い等ができていない状況があります。地域包括支援センターへも確認したのですが、現在は取組みに対する計画という事でした。そのため、私なりに久米島町の状況をいわゆるアークに分類し表のように整理してみました。久米島町には在宅医療介護連携支援センターやコーディネーターなるものは配置されていません。また、地域の狭小性・孤立性や濃い人間関係など、久米島ならではの特性が良くも悪くも影響しあうので、本島の市町村と同じ取組みというわ

けにはいかないと思われます。とりわけ、介護・医療のマンパワー不足は深刻で、児童・障害者・高齢者に関わる各協議会の構成員がすべて同じ人になるため、個人個人に係る負担も大きく、持続可能な仕組みづくりがカギになるとされます。久米島町ならではの、住民にも支援者にも優しい地域づくりができるとういのですが。

ア	地域の医療・介護の資源の把握
	・在宅医療・介護資源マップ 平成29年3月作成 久米島町地域包括支援センター
	・地域が狭く陸上で隣接した他市町村がないので、医療・介護関係者は把握している
イ	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
	・ケアマネジャー連絡協議会を2か月に1回開催している
	・個別ケースで上がる問題は地域全体の問題と言えるものが多いが、関係者で話し合う機会がなく課題の共通理解や今後の対応・取組みについて話し合いの場所が必要
ウ	切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
	・久米島病院から自宅に帰る方については8-9割程度、在宅サービス側とのカンファレンスを行い、協力体制や役割分担について話し合っている。また、医療資源が少ない地域なので、久米島病院の外来看護師が診療の合間に自宅を訪ねる等のフレキシブルな支援を行っている。
エ	医療・介護関係者の情報共有支援
	・ウ に同じ
	・地域が狭いのでどこにいても30分もあればお互いに行き来できるのでケアマネジャーが病院を訪ねてきてくれることが多い。
オ	在宅医療・介護連携に関する相談支援
	・コーディネーターの設置予定はない
	・ケアマネが困ったらMSWや退院支援看護師に相談に来ることが多い。医療を拒否している方の看取り等実績があるので、話し合う場所があればこれまでの実績を地域の仕組みとして組み立てることはできそう。
カ	医療・介護関係者の研修
	・地域リハビリテーションとして月に1回程度、大浜第二病院から各事業所（主にデイサービス）への運動機能訓練について指導・助言をいただいている。担当事業所の求めに応じて、PT・OT・STから当該月の派遣職種を依頼している。
	・年に1-2回、久米島病院の院内勉強会を地域の介護関係者にも開放している。
キ	地域住民への普及活動
	・広報くめじまによる情報提供
ク	在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携
	・島で生活できなくなった方が本島や県外の子ども宅で生活する例も増えている。特に久米島内にかかりつけ医を持たず、本島で入院・手術し島に戻ってきている方が介護等のサポートを受けずに重症化している例が毎年発生しているため、本島の主要地域医療支援等と離島の状況等情報共有することは急務と思われる。

自主勉強会報告

めだかの学校

平成 30 年 9 月 19 日

北中城若松病院 医療福祉相談課 山城 悠吾

今回めだかの学校では、介護老人保健施設（以下老健）若松苑の主任である山城氏に「介護老人保健施設の役割、介護報酬改定に伴う動きについて」と題して老健の基本的な機能や役割、また、それらを踏まえて入所の相談から退所指導までの大まかな流れと入所相談するにあたってのポイントなどについて実際に施設と利用者の様子なども見学しながら講義を行って頂いた。また、4月の介護報酬改定に伴ってそれぞれの老健がどのような基準をとっている（今後目指していく）のか、それによって入所相談するにあたってどのような変化があるのかについてもあわせて講義頂いた。

基本編としては、老健は病院や自宅などから在宅復帰を目指すための中間施設であること、集中的なりハビリ（1日20分）を提供できる期間が3ヶ月のため、この期間をメドとして退所指導に入っていくことなどについて学んだ。

応用編としては、老健はマルメのため、施設によっては薬価が高いと施設負担が大きくなってしまいうため難しいと断られてしまったという事例に対して、別の薬に変更することは可能か主治医へ相談することや、入所期間を相談する（期間限定）などといった方法があるのではないかとのお話がなされた。

介護報酬改定によって、在宅復帰の「超強化型」や「強化型」など連携先の老健が今後どのような基準を目指しているのかを把握しておくことによって、相談できるケースや難しいケースなどの把握ができ、スムーズな調整が出来るようになって感じた。

今後も学びの機会を通して、よりよい支援が出来るよう取り組んでいきたい。業務終了後に、このような学びの場を提供して頂いた山城氏に感謝申し上げます

めだかのホームルーム

嶺井第一病院 井上 恵美子

9/5に中頭病院で行われためだかのホームルームの内容を報告いたします。

今回の参加者は8名、いつものように久米島病院とNetでつないだ勉強会です。毎回持ち回りで事例を提供していますが、今回は「キーパーソン不在で治療契約が困難な患者さまへの支援」という事例を提供していただきました。

私たちが仕事をするなかでは、キーパーソン＝家族という図式が浮かんでいきます。病院という立場上家族の協力が必要な場合は確かにあると思いますが、今回の勉強会は、『キーパーソンとは何か？』と改めて考えるきっかけになりました。

家族が高齢で判断力が不安「この間も説明したのに・・・」。家族が非協力的で「顔も見たくないです！」なんて言われる。主治医からは「この患者いつ退院するの？」と言われ、でも実際にはなかなか家族に会えない。MSWの『あるある』だと思います。

確かに家族にしかできない、家族にしか決められないことはありますが、1 から 10 まで家族にお願いしたら、そりゃあ病院に来なくもなりますよね。家族がダメなら誰？ ケアマネ？ お友達？ 通所先の相談員さん？ デイケアのイケメンのPTさん？ いきつけの飲み屋のママ？ 以前利用していたちょっと厳しい訪問看護師さん？ etc.この人たちを利用できないならまだまだMSWとして力不足ということでしょうか。患者さんの周りにいる 10 人の支援者で 1/10 ずつお手伝いしたら、全体では 10 以上のものが生まれてくるかもしれません。

私たちは一日中病院の中において、連携先もフォーマルな機関がほとんどです。インフォーマルといってもなかなか支援がつけられないことが多いのですが、今回の勉強会ではそんな自分を反省する機会になりました。

議題を提供くださった H さん、ありがとうございました。

めだかの放課後

平成 30 年 8 月 30 日

ちばなクリニック 医療相談室 宮城 幸之佑

8 月 30 日中頭病院にて、めだかの放課後が開催されました。

前回の MSW ニュースで、大浜第一病院の嘉手納氏より報告ありました「那覇市の介護保険申請～認定に関するアンケート」調査を踏まえ、現在、那覇市と協議中とのことです。

今回は、那覇市より介護保険申請に当たり、医療機関から事前に欲しい項目の提示がありました。何故？那覇市がこんなにも慎重になるのか、医療機関からの不具合を想定し、必要とされる項目をメンバーで抽出しました。その中で、治療中であると判断され申請や認定調査がスムーズに行かない事例が発生しているため、治療の定義の摺り合わせや入院中の認定調査を簡潔に行い調査員の負担軽減を図る病棟との体制構築についても話会われました。皆「患者さんのために」日々試行錯誤しているので、今後より良い連携ができたと思います。

めだかの放課後の紹介になります。5 年ほど前より、5 年以上の中堅者向け自主勉強会として始まっています。現在は月 1 回定例で開催し、協会の活動計画や運営などが主な内容となっています。参加メンバーは固定され 8 名ほどです。勉強になりますので対象の方がいましたらご参加の程宜しく申し上げます

新入会員紹介

大浜第一病院 医療福祉課 與座 千夏

5月に大浜第一病院へ入職致しました、與座千夏と申します。

高校3年の夏休み、初めて社会福祉士の仕事を知り、軽い気持ちでそれを仕事にしたいと思った私は4年制大学の中でも社会福祉士・精神保健福祉士という2つの国家資格が取得できるという沖縄大学へ進学しました。

運よく合格し、運よく大浜第一病院の募集があり、採用して頂くことができましたが、早く仕事をこなせるようになりたい、と思う反面、医療的な見通し、MSWとしてのアセスメントもうまく出来ず、焦り落ち込み、悔しくなることも多々あります。そんな時基本から先輩方に教えて貰ったり、同じ医療現場で働く友人と話をしたりしながら毎日新しい知識が増え、充実した日々を送っています。

早く先輩方に追いつけるように頑張りますので宜しくお願いします。

新入会員紹介

中頭病院 医療相談室 田場 正志

初めまして。中頭病院入職1年半経ちました田場と申します。去年新入会員紹介の機会がなかったため、今年この場をかりて挨拶したいと思います。

元々は保護行政で臨時のケースワーカーをしていましたが、何かの縁があり中頭病院へMSWの業務が全然分かっていなかったまま入職し、現在もまだまだ勉強の日々を送っています。先輩方の助言・サポートを受けるも、助言の内容に理解が追いつかないことも多々ある毎日です。

去年はなかなか参加できなかったのですが、今年からは研修・勉強会にはどんどん参加していきたいと思っています。あと、電話口でよく室長の『秦さん』に名前間違えられます。

こんな私ですが、今後とも宜しくお願いします。

部会からのお知らせ

* 10月研修部だより *

九州医療ソーシャルワーカー協議会中堅者研修（4年以上15年未満）

テーマ	ソーシャルワークによる退院における実践の自己評価 講師：小原真知子 先生
日時	平成30年11月25日（日） 9：00受付 10：00開始 15：00終了
会場	那覇市立病院 3階講堂
参加費	3,000円
問い合わせ	北中城若松病院 医療福祉相談課 香村
備考	詳しくは、沖縄県MSW協会ホームページをご覧ください

めだかの学校（おおむね経験年数3年未満）

テーマ	＜10月休校＞ ※11月は「回復期リハビリテーション病棟におけるMSWの役割」について 講師：安慶名真樹（大浜第二病院）
日時	
会場	
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷

めだかのホームルーム（おおむね経験年数3年以上）

テーマ	スーパービジョン（嶺井第一病院 回復期リハ病棟の事例）
日時	H30年11月7日（水） 19:00～
会場	嶺井第一病院
参加費	無料（飲食代100円）
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後（経験年数5年以上）

テーマ	未定
日時	H30年10月25日（木） 19:00～
会場	中頭病院
参加費	無料（飲食代200円）
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 當銘
OCSV	
テーマ	10月は調整中。 ※11月は「九州医療ソーシャルワーカー研修会（おきなわ大会）・予演会」を予定
日時	H30年10月10日（水） 18:30～
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	那覇市立病院 樋口
	平成30年9月18日付
	発行 香村（北中城若松病院）

9月理事運営会議録

日時：2018年9月18日（火）18：30～21：00

場所：沖縄県総合福祉センター ボランティア室

出席者：樋口会長、新垣副会長、當銘、香村、長、安慶名、石郷岡、望月（記録）

【各部報告】

（研修部）

・めだかの学校→10月休校

11月テーマ「回復期リハビリテーション病棟におけるMSWの役割について」

講師：安慶名真樹氏（大浜第二病院）

事例検討については、年内に1題提出検討。まずは事例の書き方の勉強会も検討

・めだかのホームルーム→10月はお休み

※11/7（水）19:00 場所：嶺井第一病院 テーマ：回復期リハビリ病棟の事例

・めだかの放課後→10/25（水）19:00 場所：中頭病院 テーマ：MSW サマリーについて

・OGSV →10/10（水）19:00 場所：那覇市立病院 テーマ：検討中

11/14（水）は下記の予定を検討

〈テーマ〉九州医療ソーシャルワーカー研修会おきなわ大会予演会

大浜第一病院 与那嶺氏/沖縄赤十字病院 中村氏/琉大病院がんセンター 山田氏

・初任者研修3回修了者の報告書2名→広報誌へ掲載予定

（広報部）10月のニュース担当は那覇市立病院・下地さん

広報誌のボリュームが多いため、コラムとトピックスはスキップ

県外研修参加した会員がいれば情報提供を

（社活部）

・今回は報告なし

【ちゃーがんじゅう課との意見交換会】

・アンケート集計結果を、協力医療機関へ送付予定

【九州おきなわ大会実行委員会】

・広告調整順調。広告収入150万で調整中。

・デザイン事業の事例検討に関する意見交換会

1 回目

日時:10/16(火)18:30～ 場所:総合福祉センター 講師:玉木 千賀子氏

内容:浦添市の事例検討会の取り組み紹介・各市町村で取り組まれている内容の報告と意見交換会

参加者:理事メンバー

2 回目

日時:10/30(火)18:30～ 場所:総合福祉センター 講師:玉木 千賀子氏

内容:1 回目を踏まえ、地域で開催されるいろいろな研修や会議におけるSWとしての取り組み方について
(特に処遇困難ケースに対する事例検討のあり方)

参加者:理事メンバー

・事例検討会

久米島町、久米島病院のケースで調整予定

離島の課題

・PT協会県委託事業多職種コンソーシアム実践研修のための代表者会議(説明会)

日時:10/12(金)10:00～12:00 場所:八汐荘

協会を代表して1名派遣必要:新垣 哲治氏

・PT協会県委託事業多職種コンソーシアム実践研修

日時:12/24(月・祝)10:00～17:00 場所:沖縄コンベンションセンター

参加:後日案内あり

・各関係研修情報

・11/10(土)14:00～18:00 場所:名桜大学

北部地区医師会 沖縄県医療介護連携セミナー

・12/22(土)14:00～18:00 場所:宮古島市立公民館

宮古地区医師会 沖縄県医療介護連携セミナー

・1/12(土)14:00～18:00 場所:てだこ市民交流室

浦添市医師会 沖縄県医療介護連携セミナー

・2/9(土)14:00～18:00 場所:看護協会ホール

南部地区医師会 沖縄県医療介護連携セミナー

- ・今後のデザイン事業の研修会開催案
- ・ロジックモデルについて
- ・ACPの取り組みについて
- ・事例検討について

【事務局より】

- ・沖縄県社会福祉士会九州大会(11/24～11/25)の後援依頼:承諾書提出
- ・リカバリーパレード(11/4)後援と協賛:講演の承諾
- ・がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針の一部改正について
沖縄県保健医療部健康長寿課より文書

【その他】

- ・看護協会在宅看護推進委員より、「入退院支援に関する連携について、看護職に期待することについてMSWから意見が聞きたい。」と委員会への参加要望あり。
- ・VHO-net(患者団体)沖縄学習会への協会としての参加依頼について(石郷岡氏)
次回 9/30(日)午後開催 場所:天久ヒルトップ 参加者:石郷岡氏+1名
年3回開催予定
- ・那覇市在宅医療介護連携推進事業入退院支援及び情報共有作業部会報告
共通サマリー作成に向けて検討中

次回理事会 10月15日(月)司会:樋口、書記:香村、連絡:長 各部会報告】

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

★編集後記★

今年も残すところあと2ヶ月となりました。

沖縄はまだまだ暑い日が続いておりますが、体調管理には十分気をつけていきましょう。

今回、お忙しい中原稿を快く引き受けてくださった協会会員の皆様、ご協力いただき本当にありがとうございました。